

1 年	単 元 名	のりもののことをしらべよう 「いろいろふね」
(教科)国語科		

1. 単元の目標

- 事柄の順序などをかんがえながら、内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
- 説明的な文章を読み、分かったことを「ぼく・わたしののりものずかん」にまとめる。

2. 学校図書館活用のポイント※目標との関連も踏まえて

- 文章の中の重要な語や文を選んで、確かめたりして伝えたいことを明確にする。

3. 授業での活用場面

学習活動	学校図書館の関わり
① 「いろいろなふね」と並行して、ほかの乗り物について書かれた図鑑や本を読む。	㊦「いろいろなふね」で紹介している4つの船が同じ観点で説明されていることに気づかせ、調べる時に必要な観点を押さえさせるとともに、読み取る方法や図鑑にまとめる方法を理解させる。 →（ノート・ワークシート）
② 「始め」「中」「終わり」という説明文の典型的な文章構成をつかませる。	㊦「ぼく・わたしののりものずかん」にまとめる時も「始め」「中」「終わり」の形になるように、重要な語や文を選ぶようにさせる。 →（読書ノート）
③ 「ぼく・わたしののりものずかん」を作る。	㊦「始め」「中」「終わり」と「役目」「つくり」「できること」の話の流れが重なるようにさせる。 →（読書ノート、ぼく・わたしののりものずかん）
④ 「ぼく・わたしののりものずかん」を紹介し合い、感想を交流することで、活動の達成感を味わわせる。	㊦ふりかえりをする。 →自己評価、他己評価 （ふりかえりカード）

4. 考察（成果や課題等）

- 教材文の読み取りを基盤にして図鑑や本を読み進めたことにより、文章の中から重要な文や語句を見つけることができる児童が多かった。
- どんどん図鑑を増やしていけることが、学習意欲の向上につながった。
- 発表の場面を学級の友達同士で行ったが、学級外の他者との連携をひと工夫すると、活動意欲も更に高まったと考える。